



社会福祉法人 千代の里

あ お ぞ ら

平成14年 4月 1日 発行 (春季 1号)

広報誌「あおぞら」発行にあたって

施設長 棚町 信基



地域の方々、各関係機関の皆様、それに保護者の皆様、広報誌発行にあたりまして、一言お礼申し上げます。常日頃より、千代の里に対しまして、物心両面にわたりご支援いただきまして誠にありがとうございます。一同に代わり厚くお礼申し上げます。さて今年度より年四回の広報誌「あおぞら」を発行することになりました。この「あおぞら」の名称の意味は千代の里のシンボルマークである旗の色がスカイブルー(青色)であり、千代の里の利用者、職員が雲一つない澄み切った青空のような純粋な心と透明な施設経営をいつまでも持ち続け、日々努力していきたいと云うことから「あおぞら」と名づけました。この千代の里も今年の七月で満五周年を迎えます。地域に開かれた施設、選ばれる施設としてサービスの質の向上に努めてまいりたいと思っています。自分達でできるボランティア活動は今まで以上に活発に、また地域の中の施設としてご利用いただけるグラウンド、陶芸作業棟等、ご遠慮なく活用していただければ幸いです。今後とも、この千代の里にご指導ご支援賜りますよう心からお願い申し上げます。



平成14年 7月 1日 発行 (夏季 2号)

創立5年を迎えて思うこと

施設長 棚町 信基



柳 博美



柳 安枝

千代の里が設立されたのは、平成9年7月1日であります。当時の甘木朝倉地域には知的障害者の入所更生施設はありませんでした。障害の子供を持つ親同志が互いに励まし学び合いながら、我が子の自立促進に向けて努力されてきました。子供の成長とともに家庭での養育保護の限界を感じ、何とかして障害者の施設をとの願いの中から柳博美夫妻が発起人となり地元有志の皆さんや学識経験者の皆さん達が努力され、社会福祉法人千代丸福祉会が結成されました。障害者を持つ柳博美夫妻の血の滲むような努力(土地及び自己資金の提供)と地元甘木市からの補助金及び国庫補助金によりこの「千代の里」が立派に設立され、障害者の皆さんが生活できるようになりました。当時の役員の方々の建設に対する努力は大変なことだったと思われまます。この5周年を迎え改めて感謝の心とそのご苦勞に対して深い敬意を表すものであります。

私は千代の里が完全に出来上がった7月17日に赴任を致しました。ハード面は完成しているのでソフト面をどうするか、まずやることは何かと考え、利用者の皆さんと職員が早く仲良くなり何でも相談できるようになること(信頼関係の確立)。そのためには楽しい行事を沢山しようと計画し実行しました。次に成人の施設であるのに利用者の皆さんが職員に対して先生呼びをしている。これはおかしい、対等な立場で支援していくためには先生呼びを止めて、〇〇さんと呼ぼうと職員の話し合いで決めました。最初の内はぎこちなかったものの、だんだんと慣れて、親しみを持った関係作りができるようになりました。お互いの基本的人権を尊重しながら職員と利用者の関係は対等な立場で接する(支援する)ことを基本にしています。次に利用者の皆さんが生き甲斐のある生活を送るためにはどう職員が支援していくのが良いのか、常に利用者や保護者の立場になって物事を考え、それが果してできているのかどうか、常に職員間で話し合い反省しながら支援すると共に、利用者個人個人の要望や話を充分傾聴しサインを見落とさないように最善の努力を払っています。また私達職員自身がこの千代の里の利用者だったら、今の福祉サービスに満足するかどうか、どう感じるのか、何をしてもらいたいのか、それを真剣に考えなければいけないと職員間で話し合い、検討しそれに少しでも近づけるよう努力しています。

創立5周年を迎えこれを節目として初心に戻り、サービスの質の向上を目指して最善を尽くしていきたいと考えています。どうか今後とも地域の皆様をはじめ、関係機関の皆様、保護者会の皆様の一層のご指導とご支援の程よろしくお願い致します。

